

照明のはなし 2

以前この紙面でもご紹介しました「照明」のお話ですが、今回はその続編です。リフォーム工事の工程を思い浮かべると大工が壁や床を作り、電気職人が配線をして、内装職人が壁紙を貼り、とその工程ごとにお部屋が変化していくのが分かります。そして最終工程が照明器具の取り付けです。工事期間中薄暗かった空間のあちこちにほのかな明かりが点灯するその瞬間、毎回お部屋に生命が宿ったかのような感覚にとらわれます。こんな経験から照明計画の重要性を意識してライティングコーディネーターという資格を取ったのが今から3年前の事です。光は、人間の心理にとっても大きな影響を与えます。昼間の明るくてやや白い太陽光は活動を促し、夕方のやや暗くてオレンジ色の太陽の光はリラックス効果があります。そんなことを頭に入れ、リフォーム後のお客様がそのお部屋でどんな時間を過ごし、どんな生活をされたいのかを常にイメージして照明計画を立てるよう心がけています。という事で今回は、具体的に照明計画を行う上での灯の考え方をご紹介します。

灯の色味



左の2枚の写真は、ダイニングが電球色のペンダントライト、リビングが白色の蛍光灯シーリングライトと電球色の蛍光灯シーリングライトの比較です。右側の写真のように空間全体で灯の色味を合わせてあげると、非常に落ち着いた居心地のいい空間になります。

照明の光



上の3枚の写真は光の出方の違う照明器具を配置した時のそれぞれのお部屋の様子です。同じお部屋ですが雰囲気は全く異なりますね。①は全て空間全体を照らす照明器具を配置したケース。②は全てポイントを絞って照らす照明器具を配置したケース。③はペンダントライトのみ空間全体を照らす照明器具、残りはポイントを絞って照らす照明器具を配置したケース。どちらのケースがご自身の理想のイメージに近いでしょうか？光の感じ方は人それぞれですのでこれが答えですという事はありません。このように感覚的な部分が多いところが照明計画の面白さであり、難しい所でもあります。



空間全体を照らす照明器具



ポイントを絞って照らす照明器具



ある程度広い範囲を照らす照明器具

最近では照明の意識も高まり、一昔前まで主流だった天井にポーンと一つシーリングライトをつけるといった手法から、写真のように一つの空間の中で必要な個所ごとに照明器具を配置する一室多灯の手法がよく使われるようになってきています。さらに上記のような光の出方の異なる照明器具を箇所ごとに配置することで、よりメリハリのある空間を作り上げる事が出来ます。

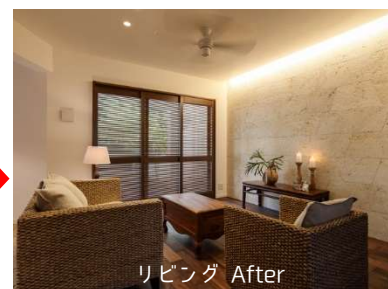
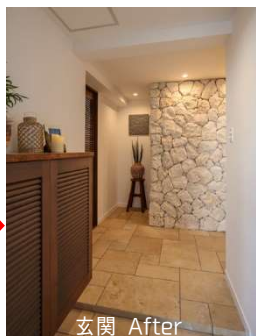
学生時代にオーストラリアで生活する時期がありました。日が沈みまわりが暗くなり始めると住宅街の家のあちこちの窓から灯りが漏れてきます。日本によくある青白い蛍光灯の灯りではなく、オレンジ色の何とも心地の良い柔らかい灯りが街のいたるところで見られました。学生という事で今ほど住宅に関心があったわけではありませんでした。窓から漏れてくる素敵な灯りの中で街の人々はいったいどんな生活をしてるんだろうと想像しながら夜道を歩いたものでした。冒頭でもお話しましたが、光は、人間の心理にとっても大きな影響を与えます。それゆえ照明はただお部屋を明るくするだけの物ではなく、生活に潤いを与え、快適な住まいづくりを手助けしてくれるとても重要な住宅設備なんです。

いかがでしたでしょうか。皆さんも一度、お部屋の全体照明を消して、お手持ちのテーブルランプやスタンドライト等をいろんな場所にスポット的に置いてみて下さい。きっとお部屋の印象が変わり、見えてくる景色が違いますよ。

BEFORE → AFTER リフォーム工事見学会

海沿いの中古マンションをリフォームを前提に購入されましたお客様からのご依頼物件で

です。よく沖縄にご旅行に行かれるお客様がいつもご利用になれるリゾートホテル「ブセナテラス」のお部屋のようにしたいというのがご要望でした。お部屋に居ながら沖縄を感じていただきたいと、内装には琉球石灰岩という沖縄の海とサンゴが作り出した国産のライムストーンを採用。保湿性や通気性に優れ、玄関は原石のまま積み上げ、またリビングは台形に加工したものを上下交互に積み上げ、意匠性にこだわりました。



ココがポイント!

今回室内建具（出入口扉、収納扉等）は全て可動ルーバーを採用しました。内装のアクセントになっているのはもちろん、ルーバーは180度回転し手動で好きな角度に調整できる為、お部屋に取り入れる光の量や、換気の為の通気も自由に調整できる優れたもの！風の抜けが悪く、湿気のこもりやすいマンションの救世主です！

お部屋の内装は調湿効果の高い漆喰仕上げに、キッチンの扉やお部屋の壁の一部には古材をあしらい自然素材

で統一しました。その他種類の違うフローリングやタイル等を使い、変化に富んだマンションリフォームとなりました。



編集後記

新緑のさわやかな季節になりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。弊社はと申しますと、このところ立て続けに何件か外回りの工事が始まるうとしています。いずれも足場を組んで

の工事となりますが、その内容は屋根の葺き替えや外壁塗装、窓サッシの交換などいろいろです。今回の記事は内装にまつわるお話でした。お部屋の中で毎日目にするところであれば、傷みや不具合もすぐに気が付きますが外回りはなかなか意識がいきません。中にはうちの屋根の種類は何だっけ？なんてお客様もたまにいらっしゃいます。屋根の上に乗るのは危険ですが、目の行き届く範囲で外回りのチェックをしてみたいかがでしょうか。日々のチェックによりメンテナンス費用を最小限に抑える事が出来ます。それでは次回は8月発行予定です。お楽しみに！